

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 自己点検・評価委員会

(責任者名) 佐々木 賢太郎
 (役職名) 自己点検・評価委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムは、令和7年度以降入学生を対象とするものであり、総合経済学部では全て卒業必修科目を修了要件に設定しているため、全学生の111人が履修し、102人が修得した。一方、選択科目の「データサイエンス」を含む医療健康学部、看護学部は、履修者数が医療健康学部では74人中14人、看護学部では89人中9人の履修者に留まった。人間社会科学部では令和7年度の開講科目は全学生が履修したが、2年次開講予定の選択科目の「データサイエンス」を修了要件に含んでいる。本教育プログラムが開設初年度であり、学生の認知度が低かったことが影響したものと考えられるため、今後は学生への丁寧な説明と周知が必要である。
学修成果	本教育プログラムでは、データやAIを適切に理解し活用するための基礎的素養を身に付けることを目的としている。各科目において、課題レポートやディスカッションを実施し、担当教員から学生へフィードバックを行うことで、学生の理解が深まるように努め、学修成果の確認を行っている。今後は、本教育プログラム修了者、履修者を対象としてアンケートを実施し、教育目標を達成していることを確認する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	全科目を対象に授業アンケートを実施している。本教育プログラム科目においても、複数の項目について調査を行い、その回答結果を分析することで、学生の理解度を把握している。令和7年度の授業アンケートの結果によれば、当該科目は4学部いずれにおいても、全授業科目の平均値を上回る結果となった。これにより、学生の授業内容の理解については、一定の評価を得ていると判断できる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムは実施初年度であり、修了者に対するアンケートは未実施であるが、授業内で得られたフィードバックコメントでは、学修内容の有用性が段階的に学べるプログラムへの肯定的な意見が多く、今後のアンケートにおいても一定の推奨以降が示されることが期待できる。当該アンケートの結果を踏まえて、教育内容の改善を検討する必要がある。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和7年度の本教育プログラム開始にあたり、新入生オリエンテーションで案内チラシを配付して説明を行ったが、履修者数実績から学生に当プログラムの魅力が十分に伝わっていなかったと判断する。当プログラムへの学生の認知度も低いと見られることから、周知方法や説明内容の改善が必要である。学内ポータルサイトやSNS等による学生への発信など、周知に係る様々な取組が急務であると言える。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは、令和7年度以降入学生を対象とするものであり、修了者の卒業は令和10年度以降となる。本学では卒業生を対象とした「卒業生アンケート」を実施しており、修了者の進路や活躍状況は当該アンケートの活用により把握する予定である。また、卒業生の就職先を含む企業を対象としたアンケートも実施しているため、企業等からの評価は当該アンケートの活用により把握する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本教育プログラムは、令和7年度から開始したものであり、現時点では産業界からの評価実績はないが、企業の経営者からは「これからの時代にはどの業界においても、データサイエンス、AIの技術は業務に取り入れる必要である。」との意見が多数寄せられている。今後は当教育プログラムに関する産業界からの評価アンケートを実施し、意見をもとに改善を図る必要がある。また、地元企業や福祉施設等との連携によるPBL(課題解決型学修)を積極的に導入し、教育の質の向上に努めている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムは加速するデジタル社会、いわゆるSociety5.0時代において必要とされる数理・データサイエンス・AIに関する知識や技術の修得を図ることを重視し、プログラムの展開を進めている。授業は、科学分野が得意な学生のみならず、科学に苦手意識を持つ学生にも配慮した構成とし、誰もが理解を深めることができるよう教材の作成等を行っている。また、授業担当教員は各学部学生の卒業後の進路(職域)に即した具体的事例を題材とし、実践的かつ身近な内容で授業を展開し、当プログラムの楽しさや意義を理解してもらえるように努めている。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	本プログラムでは、数理・データサイエンス・AIに関する広範な内容を扱っており、学生がこれらの分野に対して幅広い知識を修得することを目的としている。全体を通じて基礎的かつ多面的な理解を深めることを重視している一方で、企業や教育機関などの実社会における現場レベルでの活用に向けては、今後さらなる知識と実践的経験の積み重ねが必要であると認識している。自ら調べ、考え、解決策を導き出す力の育成が重要であり、学生一人ひとりが社会に出た際に直面する現実的な課題に対し、その本質を見極め、論理的に解決へ導くための思考力と判断力を養う教育を展開している。